

2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 文学部 日本史研究学域

「人文学プロポーズ方式」

【選考講評】

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
日本史研究学域	13	8	5

2. 第一次選考＜ES(エントリーシート)と課題レポート・志望理由書等＞

(1) 評価ポイント

エントリーシートにおいては、A：現在までの学習や日常生活から学び得たこと・自分の長所・特技の記載、B：本学域の志望理由、C：卒業後の進路、について記入を求め、Aでは意欲・主体性や活動経験、Bでは学域の学びや特色の理解度、Cでは学域の学びと社会との関係についての関心や意欲についてみました。Aについては、自己アピールだけでなく具体的な経験や実績を元に説明しているもの、Bについては、なぜ本学でなければならないのか具体的な言及があるもの、Cについては、学域の学びや特色と関連付けて展望を述べているもの、などを評価しました。一方、「日本史が好きだから」「歴史のある京都だから」のような、具体性を欠く説明に終始したものは高評価を得ることはできませんでした。

プロポーザルシートにおいては、①学問としての日本史や考古学に関する基礎的理解があるか、②探求したいテーマに独創性や具体性があるか、③学習・活動計画に具体性があるか、などを評価のポイントとしました。とくに②について、そのテーマに対する拘りや具体的なアプローチ方法を説明しているものを高く評価しました。一方、テーマ設定が大きすぎて漠然としているものや、メディアの受け売りのような通俗的なテーマについては評価を得られませんでした。

(2) 解答状況

エントリーシートについては、Aについては具体的な記載が多く、大きく差が付くことはありませんでした。Bについては、教員の研究テーマや学域の特色を踏まえて具体的な理由を述べたものは少なく、文学部 HP や大学案内の文言を引用する程度で、なぜ本学でなければならないのか明確ではない漠然とした内容の志望理由が目立ちました。Cについては、進学希望者・教員などが多くを占めました。ここも大きく差がつく傾向はありませんでした。

プロポーザルシートについては、まず①のところで学問としての歴史学について基礎的な知識や理解が不十分なものが目立ちました。②テーマについては、本人が単なる興味・関心の域を超えて、主体的に探究するための具体的な方法まで書かれているものは少なく、希望や意欲を表明するまでで終わる内容が目立ちました。また斬新で独創的と言えるテーマを書いたものはごくわずかでした。③について、webなどでカリキュラムを調べ、卒業までの4年間の「履修計画」を詳細に作成したものが目立ちました。しか

し、ここで求めているのは、本人の探究したいテーマに即した学習・活動計画ですので、その主旨が上手く受験者側に伝わっていなかったとも考えられます。なお、昨年度も今年と同様のコメントをしておいたのですが、このコメントがあまり活かされていないのか、今年も昨年と同様の傾向が見られました。せつかく出題者によるコメントですから、もう少し勉強していただけることを望みます。

3. 第二次選考

(1) 評価ポイント

探究したいテーマについて、自ら主体的にどのように取り組んできたのかを明確に説明したプレゼンには高評価を付けました。一方、計画や将来のことが中心になり、探究したいテーマについて表面的な理解や紹介にとどまったものは評価を得られませんでした。

(2) 解答状況

プレゼンテーションはよく練習されており、聞きやすいものがほとんどでした。また今時の学生さんらしく、スライドの構成も洗練されており、短い時間内で正確に伝えようとする意志は明確に感じられました。

しかし、探究したいテーマについての具体的な質問や、実際に本人がどのようなアプローチや活動をしてきたのかの質問に対して、的確に答えることができた受験者はごく少数でした。興味や関心から進んで、自ら文献を調べたり実際に行動したりした経験に乏しく、今後の希望や意欲を強調する傾向が目立ちました。せつかくこの入試方式に出願されるのでしたら、専門的な学術書や論文に目を通して、自分が解いていきたいテーマについて学界ではどのような研究動向にあるのかを把握し、それに対してオリジナリティーあふれるアイデアで挑んでいくような魅力的なプレゼンをしていただけたらと思いました。

(3) 試験（プレゼンテーション・面接）内容

第二次選考では、「入学後に探究したいテーマと具体的な内容」を中心に、「学習・活動計画」を含めたプレゼンテーションと面接を行い、探究したいテーマに対する理解度や具体的な活動、志望理由の背景・動機などをみました。

(4) 出題（プレゼンテーション・面接）の意図

歴史学に対する基礎的な理解と研究に必要な言語能力や伝達能力、また研究に対する意欲・行動力などを把握しようとしてしました。

(5) 受験生に望むこと、その他気付いた点

意欲や将来像を語ることも重要ですが、とくに私達がみたいのは、なぜそのテーマを探究する必要があると考えたのか、それに対して自分でどのように考え、実際にどのようなアプローチを行ってきたのか、そして今後どのように深めていきたいのか、こういった点です。探究したいテーマに徹底して拘り、時間をかけて準備し理解を深めた上で、プレゼンの場で教員と議論する位の自負を持って受験に臨んで欲しいと思います。

以上